

グローリー株式会社

〒670-8567 兵庫県姫路市下手野1-3-1
TEL(079)297-3131(代表) FAX(079)294-6233
www.glory.co.jp

本報告書に関するお問い合わせ

品質・環境推進部

TEL(079)294-6242 FAX(079)297-3124



この報告書は、FSC認証紙と植物油インキを使用し、水なし印刷を採用しています。



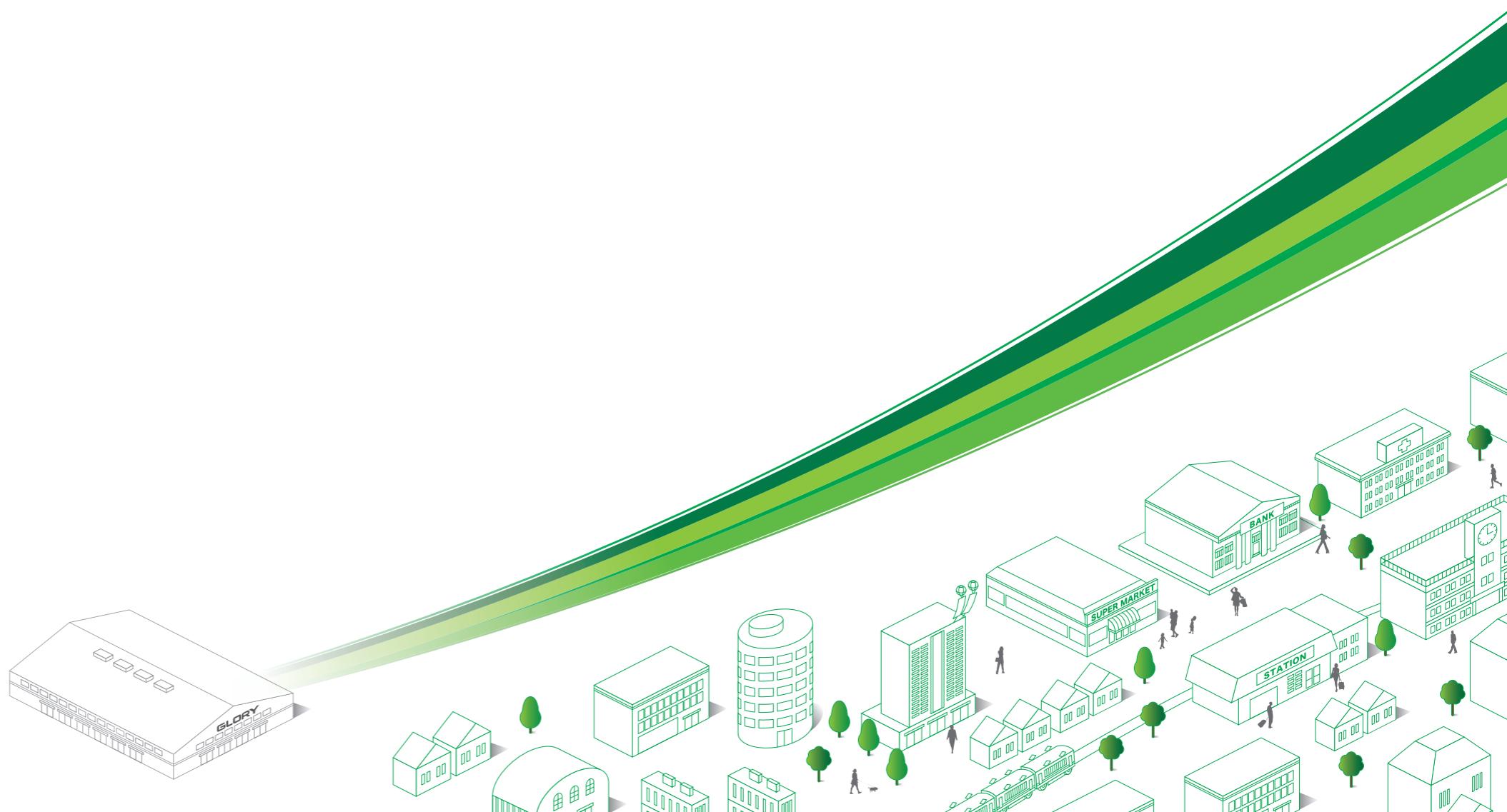
グローリー株式会社

環境報告書2010

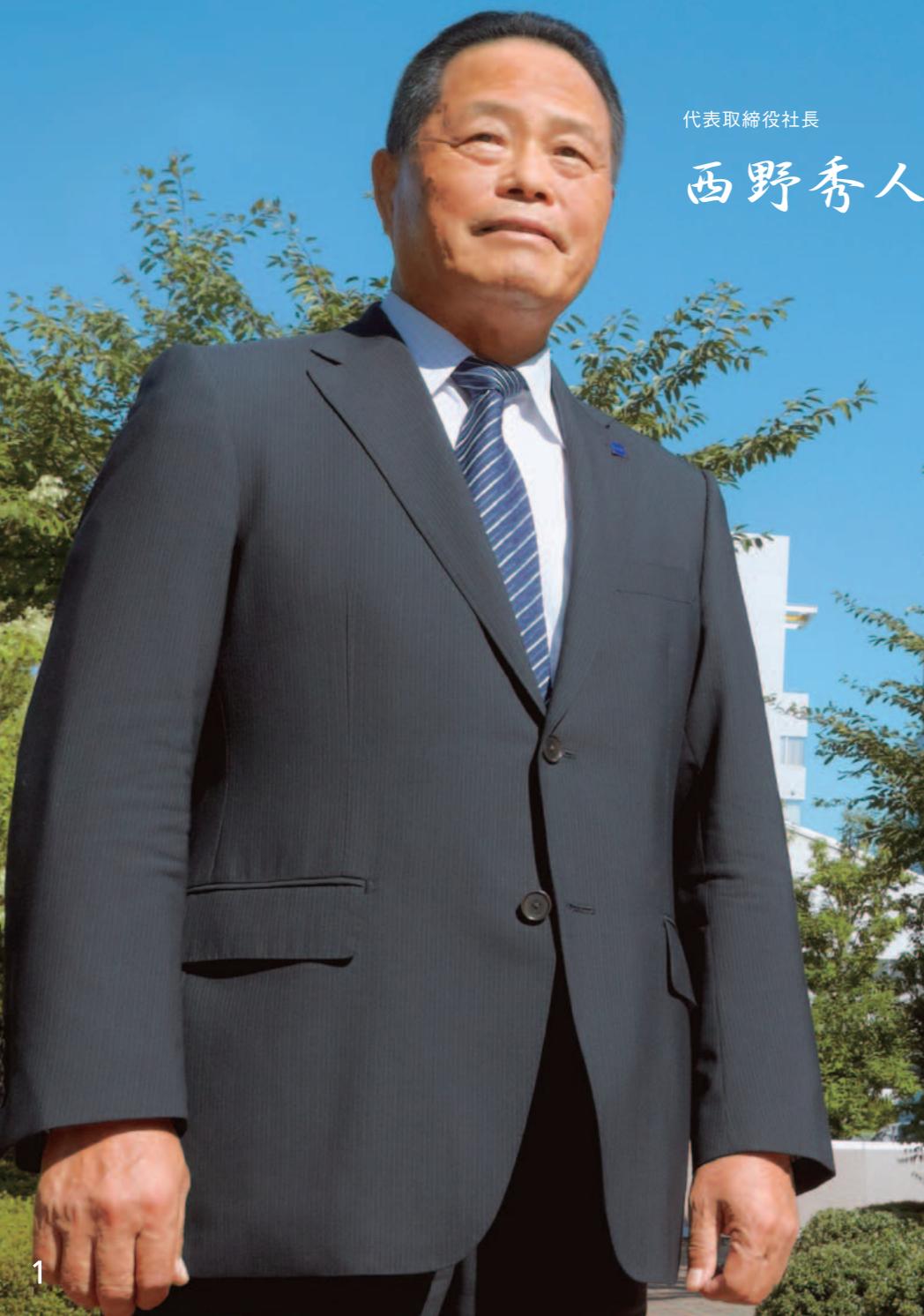


We Secure the Future

思いをかなえる 技術で見つめる 確かな未来



地球環境の“確かな未来”のために、環境 でのトップブランドを目指します



代表取締役社長

西野秀人

地球温暖化や生物多様性の減少など、環境問題が地球規模で深刻化している昨今、これらを解決していくには、社会全体で取り組んでいく必要があります。環境保全に対する企業への要請も年々高まっており、当社グループも、企業市民として真摯な姿勢で取り組んでいかねばなりません。そのような状況において、当社グループは、“技術と行動”で“安心・確実”な地球環境の実現に貢献してまいりたいと考えております。

現在、当社は、“世界的視野でビジネスチャンスを捉え、新たな成長ステージへ飛躍する！”という基本方針の下、2009年度から3カ年計画で、「2011中期経営計画」を推進しております。その中で「GLORYを世界のトップブランドに！」をビジョンとして掲げ、「ビジネス戦略」「体質強化戦略」「グループ体制強化戦略」を基本戦略として、様々な施策を展開しております。このビジョンを具体化するトップブランドイメージの一つとして「環境負荷の低減及び資源保護への積極的な取組み」を掲げました。

これを実現するには、環境保全に対する社員一人ひとりの意識を向上させる取組みを展開するとともに、「事業」と「製品」の二つの観点から環境保全活動に取り組むことが不可欠であると考えております。そのため、当社グループは環境方針の二本柱として、事業活動に伴う環境負荷を低減する「グリーンファクトリー、グリーンオフィスの推進」と、当社製品が環境に与える負荷を低減する「環境に配慮した製品の提供」を据え、これらの活動に取り組んでおります。

また、2010年度は新たに当社グループの環境ビジョンを策定いたしました。事業活動を進めていく中で、グローリーの環境保全活動の目指す姿や中長期目標をこのビジョンによって明確にし、ステークホルダーからの信頼性の向上を図ってまいりたいと考えております。

グローリーは、企業力強化の一環として、今後も環境経営のさらなる浸透に力を尽くし、企業価値の向上に努めてまいります。

企業理念 私たちは「求める心とみんなの力」を結集し、セキュア(安心・確実)な社会の発展に貢献します

経営理念
● 絶えざる開発の心で、お客様から信頼される製品とサービスを提供します
● 個性の尊重とチームワークにより、活力ある企業グループをつくります
● 良き企業市民として行動し、社会との共存・共生に努めます

ビジョン GLORYを世界のトップブランドに！

トップブランドイメージ
お客様／信頼される商品・サービスの提供
株主／健全な企業活動を通じた利益創出と適正な株主還元。迅速で的確な情報開示
社員／働きがいのある企業
取引先／公正・透明な取引の徹底による相互信頼の醸成と共存共栄
地域社会／奉仕活動を通じた社会発展への貢献
環境／環境負荷の低減及び資源保護への積極的な取組み

企業メッセージ We Secure the Future

思いをかなえる 技術で見つめる 確かな未来

意識向上をベースに、「製品」と「事業」の二つの観点から環境活動に取り組みます

「環境負荷の低減及び資源保護への積極的な取組み」は、当社が掲げたトップブランドイメージの一つです。

社員一人ひとりの意識のイノベーションをもとに、新たに策定した環境ビジョンの実現を目指します。



環境負荷の低減と地球資源の保護をグローバルに展開し、
地球環境の“確かな未来”に貢献します

グローリーグループ環境方針

私たちは地球にやさしい行動と環境に配慮した製品の提供に全員で取り組みます。

グローリーグループ(以下当グループ)は、貨幣処理機器、自動販売機、情報通信機器などの開発、生産、販売、保守及び物流を行っていることを踏まえ、環境保全活動を行います。

① 当グループの事業活動、製品及びサービスが
環境に与える影響を的確に捉え、環境汚染の予防を推進する。

② 環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの
継続的改善を図る。

③ 当グループの環境側面に適用される法的要件事項、
及び当グループが同意するその他の要求事項を順守する。

④ 以下の項目を管理テーマとして取り組み、
目的・目標を定め、定期的にレビューする。

- ① グリーンファクトリー、
グリーンオフィスの推進
- ② 環境に配慮した製品の提供
・製品の省エネルギー
・グリーン調達
・省資源、リサイクル
・化学物質の適正管理
- ③ 地球温暖化防止
- ④ 資源の有効活用
- ⑤ 製品含有化学物質の削減
- ⑥ 製品のリサイクル

⑤ 社会の環境活動に協力するとともに、
社員一人ひとりが環境保全活動を通じて社会貢献に努める。

「グローリー環境ビジョン」を実現するための中期環境活動計画(3カ年)

活動分野	活動テーマ	活動内容
製品	地球温暖化の防止	環境配慮型製品の開発 (2030年に製品使用時のCO ₂ 排出量を2005年比30%削減)
	化学物質の管理・削減	製品含有化学物質規制への対応 (RoHS指令の順守、REACH規則への対応)
	資源の有効活用	省資源設計 (コンパクト化・軽量化) リサイクル材を使用した製品開発 ライフサイクルアセスメント(LCA)の実施
事業	地球温暖化の防止	省エネルギー活動の推進 (事業所、物流でのCO ₂ 排出量削減) 環境配慮型製品の提供
	化学物質の管理・削減	製造工程で使用する化学物質管理の徹底
	資源の有効活用	廃棄物総排出量の削減、再資源化率の向上 使用済み製品の回収と再資源化の推進
意識	生物多様性の保全	事業所周辺の里山保全活動
		取引先への環境保全活動推進の要請
		環境に関する社会貢献活動の推進

グローリー環境ビジョンを新たに掲げ、
“みんなの力”で環境保全活動を推進してまいります

当社グループでは、環境方針に基づき、様々な環境保全活動を推進しております。現在、最重要課題として取り組んでいるのが、2010年4月に改正された法律(エネルギーの使用の合理化に関する法律)への対応です。当社自身がさらなる省エネルギー義務を課されるようになったばかりでなく、多くのお客様が新たに法律の対象となりました。当社グループは、お客様の省エネルギー活動をサポートするため、環境配慮型製品の開発にお一層力を注いでまいります。

また、2010年度は新たに環境ビジョンを掲げました。従来の環境保全活動は単年度計画で進めておりましたが、会社の経営戦略は中長期で展開されているため、環境に関しても中長期的な方向性が必要と判断し、ビジョンの策定に至った次第です。

さらに、2010年度から、地域の里山保全活動を通じて生物多様性保全に取り組む準備も進めております。地球上には多種多様な生き物が存在し、それらのバランスを保つことの重要性は当社も十分認識しており、社会の公器として取り組んでまいる所存です。

今後は、社員の総力を結集して環境ビジョンの実現に取り組み、地球環境の確かな未来に貢献してまいります。

常務執行役員
環境マネジメント担当

松下 秀明

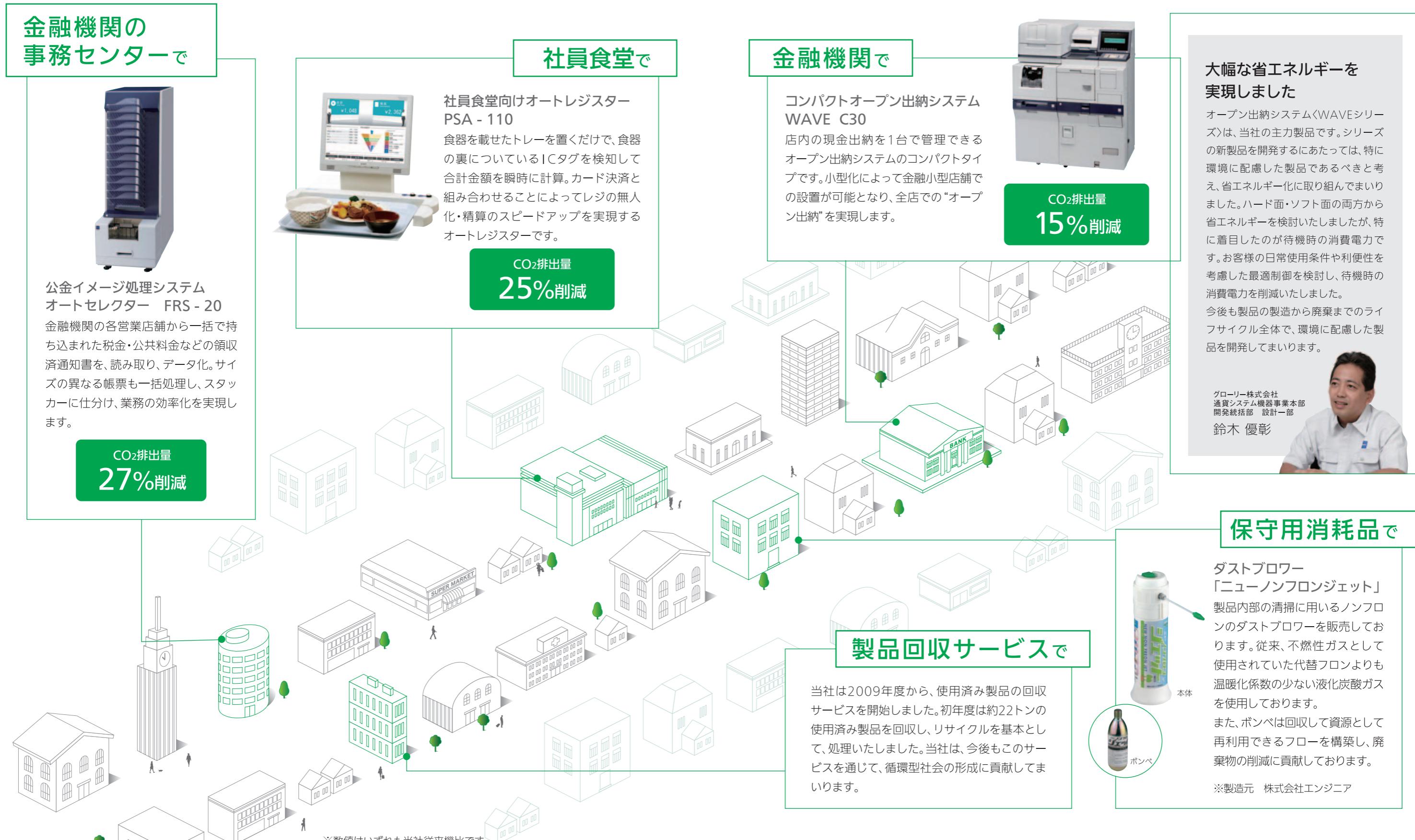


製品で

市場のあちこちに、グローリーの環境配慮型製品を展開してまいります

低炭素社会の実現に向けて、環境に配慮した製品を提供していくことの重要性が高まっています。

当社は、環境方針に「環境に配慮した製品の提供」を掲げ、多様な環境配慮型製品の開発に力を注いでおります。



事業で

生産活動に伴う環境負荷の低減に努めて おります

当社は、地球環境への負担が少ない事業活動の展開に努めています。

特に、地球温暖化防止や化学物質の管理・削減などの環境保全活動を中心に、グループをあげて取り組んでいます。

地球温暖化の防止で

当社では、地球温暖化防止に向けて、環境に配慮した施設・設備を積極的に導入しております。

埼玉工場で

当社は、2009年7月に、流通市場向けの主要製品であるレジつり銭機等の生産量増加に対応するために、埼玉工場（埼玉県加須市）を拡張いたしました。拡張部分は、製品、海外調達部品、ユニットの保管・配送拠点としての機能も備えており、物流業務の効率化によって、埼玉一姫路間の輸送による環境負荷を低減。年間284トンのCO₂を削減いたしました。このほか、モーダルシフトにも取り組み、物流における環境負荷の低減を推進しております。



埼玉工場

佐用工場で

グローリープロダクツ株式会社の佐用工場（兵庫県佐用郡）では、2007年度から環境保全活動を開始いたしました。2009年度は、夏季の屋上冷却と芝生植栽による敷地の緑化に取り組みました。屋上冷却で空調の負荷を低減し、夏季の電力を前年比平均約25%削減できました。



敷地緑化

環境保全活動を通じて地域に貢献します

環境保全活動の開始当初は、省エネルギーや廃棄物削減のイメージが強くありました。活動が4年目に入った今、環境保全活動は社会貢献につながるという認識に変わり、活動を通じて地域の役に立ちたいと考えるようになりました。

例えば、隣接する土地に「さよう子育て支援センター」ができたことをきっかけにして敷地緑化にも取り組みました。緑化エリアには、桜も植えており、2011年春、同センターの子どもたちへの開放を検討しています。「子どもたちが楽しみにしている」というご期待の声もいただき、大変励みになりました。今後も地域に根ざした企業として、活動を展開してまいります。

グローリープロダクツ株式会社
総務統括部 工場総務部
佐用総務グループ

グループマネージャー
上野 達也(右)
春名 元紀(左)



化学物質の管理・削減で

当社グループは、環境に配慮した部品を調達する「グリーン調達」を推進しております。環境負荷の少ない部品を購入し、環境に配慮した製品をお客様に提供することで、地球環境保全、循環型社会の形成に貢献してまいります。また、製品に含まれる鉛や水銀などの規制化学物質の削減にも取り組んでおり、国内の生産拠点だけでなく、海外のグループ会社においても、施策を実行しております。例えば、中国にある光榮電子工業（蘇州）有限公司では、これらの規制化学物質の有無を調べる蛍光X線分析装置を用い、入荷する部品の検査を実施しております。



蛍光X線分析装置

資源の有効活用で

緩衝材のリユース

当社の本社工場及び姫路パートセンターでは、納入部品の梱包に使用されている緩衝材のリユースに取り組んでおります。部品の受入時に回収された緩衝材は、一定量に再パックし、全国の事業所へ保守用機材を発送する際に使用しています。2009年度のリユース量は約2.7トンであり、これは機材発送時に使用する緩衝材の約50%を占めています。資源の有効活用だけでなく、廃棄時に発生するCO₂の削減もできるため、地球温暖化防止にもつながっております。

緩衝材のリユースは、廃棄物の削減のため2004年度から開始しました。開始にあたっての最も大きな課題は、様々な大きさ・形状の緩衝材をどのように均一化するか、ということでした。検討の結果、事業所の構内美化を担当するグローリーフレンドリー株式会社の協力により、汚れない緩衝材を選別して一袋30グラムにまとめることができたため、リユースできるようになりました。現在では、保守拠点から修理依頼部品を送る際にも繰り返し使用し、さらに、国内だけでなく海外現地法人への機材発送にも展開しています。今後もグループ会社と一体となって、継続して取り組んでまいります。

グローリー株式会社
保守統括本部 CES統括部 CES部
徳永 秀一



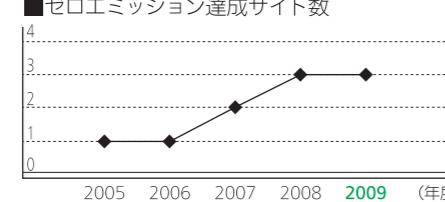
エコキャップ活動

東京本部では、2009年度からペットボトルのキャップを収集し、資源として再利用するエコキャップ活動に取り組んでおります。この活動は、東京本部の環境推進リーダーの提案によりスタートし、2009年度には78,760個を収集、活動を推進するNPO法人に送付しました。キャップは、リサイクル資源として活用され、売却益は発展途上国の子どもたちへのワクチン代として寄付されます。この活動は、廃棄物削減のみならず、社会貢献にもつながるため、2010年度からは、本社・本社工場、東北支店、首都圏支店、近畿支店など、他の拠点にも展開しています。



エコキャップ活動



環境データ(2009年度の目標と実績)				
テーマ	目的	目標	実績	自己評価
省エネルギー・温暖化防止活動	事業所におけるCO ₂ 排出量削減	実績把握	2008年度比4.9%削減(9,738t)	○ 排出量は削減しましたが、生産量の減少に伴うところが大きいため、今後も削減に努めてまいります。
	物流におけるCO ₂ 排出量削減	実績把握	435t	○ 物流の効率化により、2008年度比284tの削減を行いました。
	CO ₂ 以外の温室効果ガス	当社が販売したダストプロワーに含まれる温室効果ガスの実績把握	HFC 8.5t	○ 代替フロンを含まないニューソンフロンジェットへの転換をさらに進めてまいります。
省資源・リサイクル活動	再資源化率の向上	ゼロエミッション※達成4サイト以上	■ゼロエミッション達成サイト数  2005 2006 2007 2008 2009 (年度)	△ 姫路サイトでの、再資源化率が99.4%となり、目標未達となりました。汚泥及びコンデンサを排出したことが主な原因であり、2010年度は汚泥のリサイクル化を検討します。
法規制順守	騒音規制法への対応	敷地境界線上での規制値順守	全対象事業所で規制値以下	○ 事業所近隣のみなさまのさらなる負担軽減に取り組みます。
	その他の法規制への対応	全ての法規制順守	全サイトで順守確認	○ 今後も継続して状況を確認し、法規制逸脱のないように努めます。
社会貢献活動	事業所周辺の清掃	活動定着	■清掃活動参加者数(延べ人数)  2006 2007 2008 2009 (年度)	○ 延べ3,735名が参加しました。
環境に配慮した製品の開発	新製品のグリーン製品対応	全対象機種で実施	10機種	○ 今後もグリーン製品の開発に注力してまいります。
	製品アセスメントの見直し	省エネ性を強化したアセスメント基準を策定	基準改正実施	○ 省エネ性をより強化した基準を策定し、地球温暖化防止に貢献いたします。
グリーン調達の推進	調達部品の含有化学物質の品質保証体制構築	2009年度中の運用開始	ルール策定、運用開始	○ 蛍光X線分析装置を用いて部品の検査を実施し、RoHS指令の順守に努めています。
	グリーンパートナー率の向上	90%以上	93.7%	○ 2010年度以降は、化学物質の管理体制についても調査する予定です。

※ ゼロエミッション：再資源化率99.5%以上と定義しております。

自己評価について ○達成 ○現状維持 △達成できなかった

第三者コメント

京都精華大学 人文学部 総合人文学科 環境未来コース 准教授
環境マネジメントシステム主任審査員

服部 静枝 氏

環境報告書の読み手として、株主や顧客を想定されており、目的適合性の観点から、必要な情報がコンパクトにまとめられた報告書だと言えます。

ISO14001の認証範囲をグループ会社にまで拡大し、本来業務に直結した「環境配慮型製品の開発」を軸に環境活動を展開しておられます。特筆すべき点としては、環境ビジョンが示され、中長期目標として「2030年に製品使用時のCO₂排出量を2005年比30%削減」が設定されているほか、「生物多様性の保全」が盛り込まれたことが挙げられます。各社の環境保全活動の中でも、特に生物多様性保全については取り組みが遅れているだけに、高く評価できます。

環境対応については、地域への貢献活動なども含めて幅広く推進されていますので、今後は、社会的側面(例えば、企業倫理の向上、就業の継続性など)への取り組みを加えた「環境・社会報告書」に展開されることを期待します。

会社概要 (2010年3月31日現在)

商 号	グローリー株式会社 GLORY LTD.	■売上高(連結) (単位:百万円)	■当期純利益(連結) (単位:百万円)
創 壽	1918年(大正7年)3月	200,000	15,000
設 立	1944年(昭和19年)11月	150,000 141,231 164,539 185,181	10,000 11,711
資 本 金	12,892,947,600円	100,000	5,000
上場証券取引所	東京・大阪証券取引所	50,000	740
市 場 第一部		0	6,461
従 業 員 数	3,516名	2005 2006 2007 2008 2009 (年度)	5,782 5,108

事 業 内 容	通貨処理機、情報処理機、自動販売機、カードシステム、サービス機器などの開発・製造・販売・メンテナンス	■経常利益(連結) (単位:百万円)	■総資産(連結) (単位:百万円)
	通貨処理機、情報処理機、自動販売機、カードシステム、サービス機器などの開発・製造・販売・メンテナンス	25,000 20,000 15,000 10,000 5,000	250,000 200,000 150,000 100,000 50,000
		21,582 13,406 9,309 9,011	216,988 209,236 196,797 194,983
		2005 2006 2007 2008 2009 (年度)	206,361 209,236 196,797 194,983

報告対象組織 グローリー株式会社／本社・本社工場、東京本部、品川事業所、埼玉工場、姫路物流センター、姫路パートセンター
東北支店、東日本支店、首都圏支店、東海支店、近畿支店、中四国支店、九州支店

グローリープロダクツ株式会社／本社・福崎工場、加西工場、佐用工場、市川工場、若井工場

グローリーシステムクリエイト株式会社／本社、東京事業所

グローリーエンジニアリング株式会社

グローリーフレンドリー株式会社

グローリーメカトロニクス株式会社

報告対象期間 2009年度(2009年4月～2010年3月)

発 行 日 2010年9月

報告対象分野 事業活動に伴う環境活動の取組み状況